

奈良県立医科大学附属図書館におけるTwitterによる情報発信

森 三紗*

奈良県立医科大学附属図書館

I. はじめに

奈良県立医科大学附属図書館（以下、当館）では、2012年6月よりTwitterによる情報発信を開始した。開始に至った経緯から今後の展望について報告する。

II. 当館の概要

奈良県立医科大学（以下、本学）は医学部のみの単科大学である。当館の主な利用対象者は学内構成員で、そのうち学生数は2013年5月1日現在で医学部医学科が659名、医学部看護学科が353名である。

当館は、地上3階建ての独立した建物である。1階部分を2層にわけ書庫としている。2階にメインデスク、閲覧席、事務室があり、3階には視聴覚ホール、視聴覚個席を設けている。

III. 経緯と目的

当館では利用者が使用できるパソコンを36台設けている（表1）。

表1. PCの設置場所と台数

	名称	台数
2階	LAN検索用PC（デスクトップ）	8
	貸出用ノートPC	20
	カラー印刷用ノートPC	1
3階	視聴覚個席（デスクトップ）	7

授業で課題が出された時やレポート提出期限前は全てのパソコンが使用中になることが多い。図書館を利用したくてもパソコンが使えず渋々帰っていく学生の姿を何度も見かけることがあった。そこでパソコンの利用状況と閲覧席の空席状況をタイムリーに知らせることが出来れば、より有効的に図書館を利用してもらえるのではな

いかという思いからTwitterを開始するに至った。

IV. Twitterの特徴

1. Twitterの概要

情報発信ツールを利用するにあたり、無料かつ安全であることが重要である。Twitterは無料で利用でき、多くの大学図書館や公共図書館で活用されていることから安全なサイトであることがわかった。また、Twitterは投稿できる文字数が140文字以内と制限があるが、長文を書く必要がなく、短時間で投稿できるため業務に負担がかからない。

2. 他の広報手段との比較

1) 当館の広報手段

(1) ホームページ

当館のホームページ¹⁾は1997年10月に開設した。「開館カレンダー」「利用案内」「お知らせ」「図書リスト」など様々な情報を掲載している。

(2) ブログ

2007年6月より『ないと（奈医図）ブログ』²⁾を開設した。記事内容は「利用案内」「館内の様子」「イベント案内」、そして利用者側からは見えにくい「図書館業務」や「出張報告」などの記事を投稿している。更新頻度は週4～5回である。

(3) ニュースレター

2010年8月より月1回配信しているニュースレターには、「利用案内」「新着情報」「機関リポジトリ登録状況」「お勧め本の紹介」などを掲載している。このニュースレターは学内メールアドレスを取得している教職員・学生に配信され、当館ホームページからも閲覧できる³⁾。

(4) 学報

本学の学報は年4回発行される。当館は「図書館だより」として1ページ分を設けてもらい、「利用案内」「イベントのお知らせ／開催後の報告」などを掲載している。

学報は学内の各部署に配布され、本学ホームページよりダウンロードも可能である⁴⁾。また、当館1階のホール

*Misa MORI：〒634-8523 奈良県橿原市四条町840。
Tel.0744-23-9981 Fax.0744-23-3273 mmori@naramed-u.ac.jp
(2013年5月29日 受理)

にも複数部置いてあり、利用者に自由に持ち帰ってもらえるようにしている。

(5) 掲示板

当館玄関を入ってすぐのところに掲示板があり、「開館カレンダー」「延滞者リスト(学生のみ)」「イベントポスター」などを掲示している。また、各校舎にも掲示板があり、館内掲示板と同様の物を掲示している。

2) 広報手段の即時性と伝播性

1) で述べた広報手段の特徴を、即時性と伝播性の面から図に示してみた(図1)。

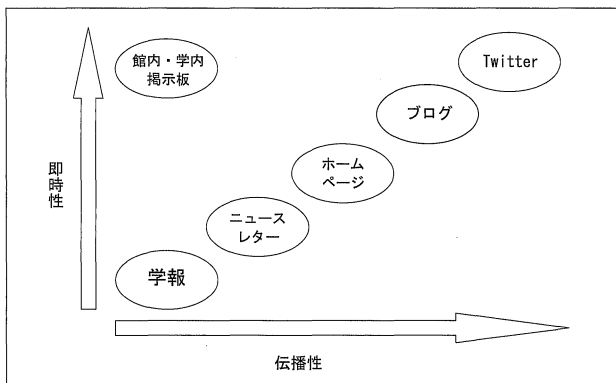


図1. 広報手段の即時性と伝播性

掲示板は即時性に優れているが、情報が伝わるのは学内にいる学生のみであるため、当館の広報手段の中では最も伝播性が低い。

学報とニュースレターは、発行・配信頻度がそれぞれ定められているため、他の広報手段より即時性と伝播性が低くなる。

ブログは週4~5回更新しているのに対し、ホームページは更新作業が難しいことや更新しない日もあることから、当館の広報手段の中でブログが最も即時性・伝播性ともに優れている。

Twitterを利用するにあたり、当館の広報手段を補完し、きめ細かい情報発信を行えると考えた。

V. 他大学図書館のTwitter活用状況

1. 調査

開始にあたり、どれほどの大学図書館がTwitterを活用しているのかを調べてみた。調査方法は、Twitterのユーザー検索機能を使用し、ユーザー名に「図書館」が含まれるものを抽出した。さらにその検索結果の中から大学図書館のみを収集した。その結果、公式・非公式や試行運用中に関わらずTwitterを活用している大学図書館は2013年5月23日現在では76館であることがわかった。一年前の調査時より13館増えていた。

2. ツイート内容

Twitterを活用している大学図書館では、こういった内容をツイートしているのかも合わせて調査した(図2)。

一番多くツイートされていたのは開館時間や臨時休館のお知らせである。利用者にとって開館情報は最も大切な情報だからだと思われる。また、イベント案内や新着案内をツイートすることにより、図書館の利用率向上を図っていると思われる。

図2以外のツイートでは、その日の出来事と関連する図書を紹介、本の豆知識や修理方法といった興味深い内

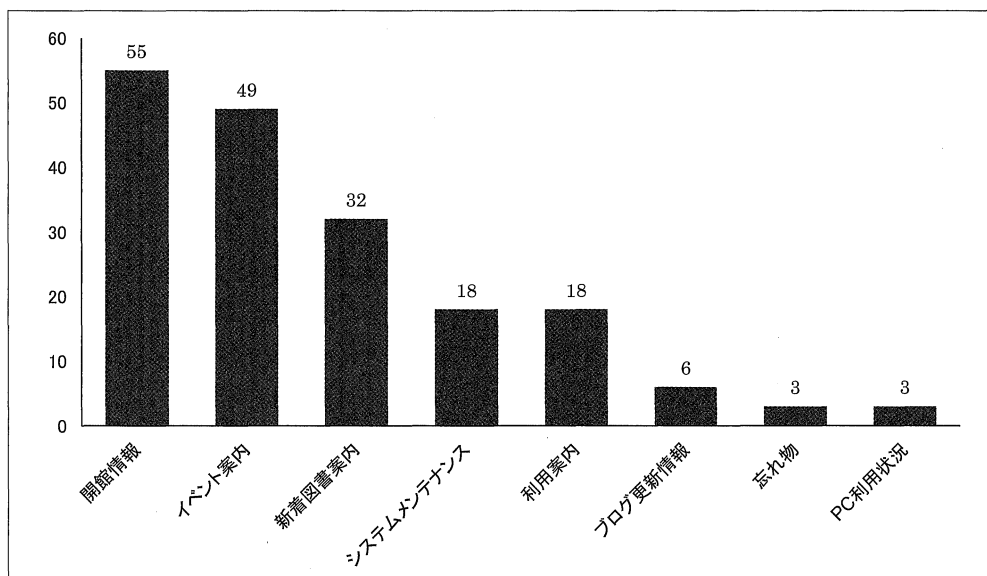


図2. Twitter を活用している他大学図書館のツイート内容と件数

容をツイートしている大学図書館もあった。また、複数のアカウントを用いて案内専用・新着案内専用と使いわけている大学図書館もあった。

VI. 開始準備

他大学図書館の活用例を参考に、当館も開始準備を始めた。

1. アカウント取得

Twitterを利用するにあたり、最初にすべきことはアカウントの取得である。

2010年8月に誕生した当館のマスコットキャラクターである「ないとちゃん」(図3)を起用し、アカウントを取得することにした。Twitter上のプロフィールページで表示される名前を「ないとちゃん」と設定し、プロフィール画像に図3を使用した。

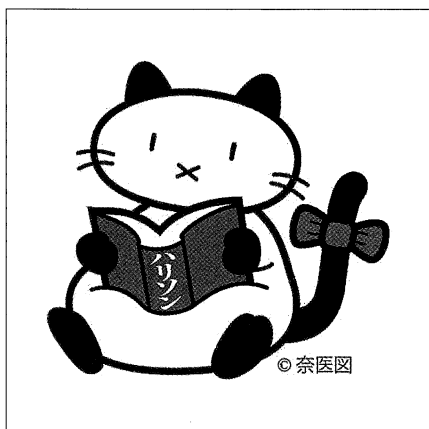


図3. 奈良県立医科大学附属図書館のマスコットキャラクター

2. 文体設定

ネコの女の子であるないとちゃんがツイートしているかのように、語尾に「にゃあ」をつけることにした。また、ネコの顔文字を使い、利用者に親しみやすさを持ってもらおうと考えた。ネコの顔文字はツイート内容によって表情を変えている。

3. ツイート頻度

当館開館日である月曜から金曜のそれぞれ1日3回以上ツイートすることを目標とし、複数のスタッフにより投稿することにした。

VII. ツイート内容

Twitterを始めるきっかけになったパソコンの利用状況をツイートする以外に、他館のツイート内容を参考にした。

1. 開館情報

開館日には毎朝必ず図書館が開館していることをツイートしている。夏期特別開館である毎年8月は開館時間が通常開館と異なるため、詳細時間をツイートするようにしている。また、本学入試等で臨時休館になる場合も数日前からツイートしている。

2. パソコン利用状況

パソコンの利用状況をツイートする際は、全て使用中という情報をパソコンの種類と併せてツイートしている。

また、混み合ってきたときだけでなく、利用が少ないときにもツイートし、パソコンを利用してもらえるよう呼びかけている。

3. 忘れ物

館内で発見した忘れ物は、忘れ物の特徴と発見した場所をツイートしている。

4. イベント案内

毎年8月に開催される本学のオープンキャンパスでは、当館を自由に見学できる様にしている。毎年行っている館内案内だけでなく、2012年度よりいくつかのイベントを企画し、来館者に楽しんでもらおうと考えた。企画したイベントの一つとして、在校生からオープンキャンパス参加者へ向けてメッセージを書いてもらい展示することにした。そのメッセージを募集する際にTwitterを活用し、ほぼ毎日ツイートした。また、オープンキャンパス当日には見学時間や各イベントの詳細を複数回ツイートした。

2013年4月にPubMedの利用説明会を、5月に医中誌webの文献検索実習を開催した。参加者を募集するにあたり、日時・開催場所・申込方法といった詳細内容を開催当日まで毎日ツイートした。

5. ニュースレター

当館が毎月1回発行しているニュースレターは、最新号をホームページに掲載後、URLを添付しツイートしている。

6. 館内情報

2012年6月よりメインデスク上に電波時計とデジタルフォトフレームを設置した。また、2013年3月には階段床の張替工事が行われ、以前と比べ階段の雰囲気が明るくなり、教職員の方々からも好評である。

このような館内情報をツイートするときは、それぞれの写真も一緒に投稿している。

7. ブログ更新情報

当館が利用しているブログサイトには「Twitterとの連携」という機能がある。ブログ記事を投稿する際に記事タイトルとURLを自動的にTwitterに投稿してくれる機能である。2012年11月よりこの機能を利用し、Twitterとブログの相乗効果を図っている(図4)。

VIII. Twitterの広報

利用者に当館のTwitterを知ってもらうために行った広報活動は以下の4つである。

1. ないとブログ

2012年6月1日にブログ担当者よりTwitter開始の記事を書いてもらった。それ以降ブログでは何度かTwitterのことが登場している。

2. 学報

2012年7月号の「図書館だより」の中で、当館Twitterの役割をユーザー名と併せて紹介した。

3. デジタルフォトフレーム

2012年6月よりメインデスク上に設置したデジタルフォトフレームは、数秒間隔で画面が切り替わり様々な情報を掲載することができる。利用案内などと併せてTwitter開始のお知らせをユーザー名とともに載せている。デジタルフォトフレームは目を引くようで、立ち止まって見てくれ

る利用者もいる。

4. うちわ

当館PRグッズとして、2010年より毎年うちわを作成している。2012年に作成したうちわには、QRコードが印刷されており、携帯電話やスマートフォンでQRコードを読み取ると当館Twitterを閲覧することができる。このうちわは学内だけでなく、オープンキャンパス参加者などの学外者にも配布している。

IX. 問題点と今後の課題

当館がTwitterを開始して2013年6月で1年になるが、フォロワー数はわずか22名とさびしい状況である。フォロワー数が伸び悩んでいる一番の原因は、利用者への周知不足である。今後は新たな広報手段の考案とツイート内容を見直し、Twitterが図書館の利用率向上の一助になるよう努めていきたい。

本稿は、第19回医学図書館研究会において発表した内容に加筆修正したものである。

参考URL

- 1) 奈良県立医科大学附属図書館 [internet]. <http://www.naramed-u.ac.jp/~lib/index.htm> [accessed 2013-05-29]
- 2) ないとブログ [internet]. <http://naramedulib.seesaa.net/> [accessed 2013-05-29]
- 3) 奈良県立医科大学附属図書館ニュースレター [internet]. <http://www.naramed-u.ac.jp/~lib/news/current.htm> [accessed 2013-05-29]
- 4) 学報 [internet]. <http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html> [accessed 2013-05-29]

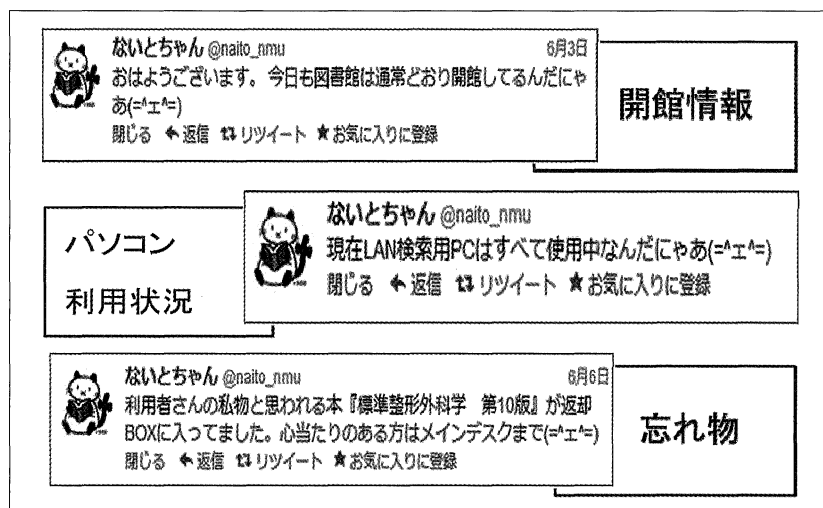


図4. 実際にツイートした内容

Providing Information Through Twitter at the Nara Medical University Library

Misa MORI

Nara Medical University Library, 840 Shijo-cho, Kashihara-city, Nara 634-8523, Japan

Abstract: At the Nara Medical University Library, we started using Twitter in June 2012 to provide timely information regarding PC use to enable efficient use of the library. Before starting Twitter, we investigated Twitter use at other university libraries and found that 75 university libraries used Twitter. We decided to tweet 3 times a day and to provide information regarding opening hours, events, and book reviews, similar

to the usage at other university libraries. A year has passed since we started to use Twitter, but we have only 22 followers. Information activities should be reconsidered so that Twitter may become helpful to library users.

Key words: Twitter; Providing information; Library users
(*Igaku Toshokan*. 2013;60(3):268-272)